## 令和6年用いちご病害虫防除基準

※ランナーを切り離した時点より使用回数をカウントする。

※殺虫剤を散布する場合は、訪花昆虫に対する薬剤ごとの安全使用基準を徹底する。

発 行: J A さ が え 西 村 山 さがえ西村山野菜振興協議会

防除時期	対	象病害	宝虫:	名	RAC	防	除	方 法	〔収穫前使用日数/	使用回数〕			注 意 事 項
育 苗 1	萎萎炭芽青疫	ち黄そ枯枯		病病病病病病	8F	土壌の消毒を行う。 バスアミド微粒剤劇30 混和する。	kg /10 a	a 〔仮植またに	は定植21日前まで	:/1回〕を均一	に散布し土壌	<ul><li>2.</li><li>3.</li></ul>	炭そ病、萎ちょう病、萎黄病は苗で伝染するので健全な株から苗(ランナー)をとる。 青枯病、萎黄病、萎ちょう病は発生後の防除方法がないため、 採苗や定植〜栽培は発病菌のないほ場で実施し、仮植床〜 本圃まで一貫した防除を行う。 萎黄病が発生した株は抜き取り、圃場外に持ち出して処理 する。
月												4.	ミツバチの巣箱周辺での使用は避ける。
前	炭	そ		病	10,1	ゲッター水和剤	1,000倍	(10g/10ℓ	)〔収穫開始21日 10 a 当たり100	前まで∕3回以下 〜300ℓ散布する			
(仮植床)	(炭	そ	?	病)								1.	仮植前の苗をベンレート水和剤の希釈液(500倍)に10~30分間 苗根部浸漬(1回)するか、または、育苗時にベンレート水和 剤の希釈液(500倍)を50~100ml/株灌注(3回以内)する。
		ゴメセニゴセン				苗で伝染するため。健全な株から苗(ランナー)をとる。						1.	苗で伝染するため、健全な株から苗(ランナー)をとる。
育	炭	そ		病	M4	オーソサイド水和剤80			)〔収穫開始14日前	}	のいずれかを 10a当たり 100~300ℓ		病気が発生した株は抜き取り、圃場外に持ち出して適切に 処理する。
苗					10,1	ゲッター水和剤	1,000倍	(10g/10ℓ	)〔収穫開始21日前	『まで∕3回以内〕	100~300ℓ 散布する。	2.	育苗期間は雨よけで管理する。
期	芽	枯		病	M4	オーソサイド水和剤80	800倍	(12.5 g / 10 l	)〔収穫開始14日i 10 a 当たり100	前まで/5回以内 〜300ℓ散布する			初期防除を徹底する。 深植えは避ける。
	輪	斑		病	M7	ベルクートフロアブル	1, 000倍	(10 <i>ml</i> /10 l	)〔育苗期(定植 10 a 当たり100	前) ∕ 5 回以内〕 〜300 ℓ 散布する		2.	無病株から苗をとる。 被害葉は集めて適切に処分する。 重粘で多湿の畑で発生が多い。
定植時	アラ	ブラ」	ムシ	/ 類	4A	ベストガード粒剤 1	g/株〔¦	定植時/1回	〕を植穴処理土壌	<b>寝混和する</b> 。			
					2	ロブラール500アクア	1,500倍	(6.6mℓ/10 ℓ	)〔前日まで/4	回以内〕を散布す	する。	1.	施設栽培ではハウス内の換気の徹底を図り、過湿にならな
	ler:	<i>h</i>	マド	· ,#	9	フルピカフロアブル	3,000倍	(3.3me/10 e	)〔前日まで/3	回以内〕	のいずれかを	0	いように注意する。
	火 1	色か	0	· 洒	12	セイビアーフロアブル20	1,000倍	(10 <i>me</i> /10 e	)〔前日まで/3	回以内〕	10a当たり 100~300ℓ	2.	ロブラール剤は耐性菌出現防止のため連用は避け、総使用 回数は3回以内とする。
					7	アフェットフロアブル	2,000倍	(5 me/10 e	)〔前日まで/3	回以内〕	散布する。	3.	アフェットフロアブルはうどんこ病にも登録がある。
					M7	ベルクート水和剤	4,000倍	(2.5 g / 10 l	)〔前日まで(生育	期)/5回以内〕			多発すると防除が困難になるため、育苗期、定植後の予防 防除を徹底する。 耐性菌出現防止のため、EBI剤(トリフミン水和剤、パンチョ
					3	トリフミン水和剤	3,000倍	$(3.3  \text{g} / 10  \ell)$	)〔前日まで/5	回以内〕	のいずれかを	۷.	TF 顆粒水和剤)の総使用回数は2回以内とする。
育		どん そ			NC	カリグリーン			)〔前日まで/-		10 a 当たり 100~300ℓ 散布する。	4.	発病が見られた果実は伝染源にならないよう速やかに除去、 処理をする。 アミスター20フロアブルは耐性 菌出現防止のため、総使
苗		Α	717	y /	11	アミスター20フロアブル			)〔前日まで/苗 本圃3回以内〕				用回数は2回以内とする。 ベルクート水和剤(育苗期(定植前)1,000倍)とアミスター20フロアブル(2,000倍)は炭そ病にも登録がある。使用の
Ш					U6,3	パンチョTF顆粒水和剤	2,000倍	(5 g / 10 l	)〔前日まで/2	四以内)			際は濃度を確認する。
					4A	ベストガード水溶剤	,		)〔前日まで/3			1	イース 歴史 中央 ログロー・カロ オート アロー・カロー・カロー・カー・カー・カー・カー・カー・カー・カー・カー・カー・カー・カー・カー・カー
期	アン	ブラム	ムシ	/ 類	1B	マラソン乳剤	,		) 〔3日前まで/		のいずれかを 10a当たり	Ι.	チェス顆粒水和剤、ウララ DF はコナジラミ類にも登録がある。
	(コ・	ナジラ	ラミ	類)	9B 29	チェス顆粒水和剤 ウララDF			)〔前日まで/3 )〔前日まで/2		100∼300 ℓ	2.	モンベトフロアブルは、ハダニ類、アザミウマ類、コナジ
5				////	23	モベントフロアブル	,		) (前日まで/2) (前日まで/3)		散布する。		ラミ類にも登録がある。
					4A	モスピラン顆粒水溶剤劇	,		) (前日まで/2				
生					3A	アーデント水和剤	,		)〔前日まで/4		のいずれかを		
	ミカン	/キイロ)	アザミ	ミウマ	5	ディアナSC	,		)〔前日まで/2	(	10 a 当たり	1.	合成ピレスロイド剤 (アーデント水和剤)、モスピラン顆粒 水溶剤®は蚕に対する毒性が強いため注意する。
	(ア・	ザミウ	クマ	類)	15	カスケード乳剤	4,000倍	$(2.5m\ell/10~\ell$	)〔前日まで/3	回以内〕	150~300 ℓ	2.	
育					30	グレーシア乳剤	2,000倍	(5  me/10  e)	(前日まで/2	回以内)	散布する。		
					34	ファインセーブフロアブル劇			) 〔前日まで/3				
期					20D 25A	マイトコーネフロアブル ダニサラバフロアブル	,		)〔前日まで/2 )〔前日まで/2				
774					6	コロマイト水和剤	,	,	) 〔前日まで/2		のいずれかを 10a当たり		高温乾燥時に発生しやすいため注意する。 シクラメンホコリダニが発生する場合にはスターマイトフ
	<i>)</i> \	ダ		類	25A	スターマイトフロアブル	,		)〔前日まで/2	'	100∼300 ℓ		ロアブル、コロマイト水和剤のいずれかを散布する。
					25B,21A	ダブルフェースフロアブル	,	•	)〔前日まで/1		散布する。	3.	抵抗性出現防止のため、同一薬剤の連用を避ける。
					33	ダニオーテフロアブル	2,000倍	(5 me/10 e	)〔前日まで/2	回以内〕			
	ハス	モン	日	トウ	28	フェニックス顆粒水和剤	,		)〔前日まで/2	}	のいずれかを 10a当たり 100~300ℓ		
					11A	ゼンターリ顆粒水和剤	1,000倍	(10g/10ℓ	)〔発生初期ただし』	収穫前日まで/-〕	散布する。		
	ナ	メク	ジ	類	_	ナメクリーン3〔前日まで	[/2回以	」 以内〕を10 a ≜	当たり 3 kg を株元	散布する。			

農薬の使用にあたっては、使用回数に加え、有効成分ごとの総使用回数も定められているので遵守する。

成	分	名	RAC	農	薬	名	使用	回数	同一成分総使用回数	備考		
	・ンピラ⊿	<i>)</i> .	4A	ベストガード粒剤 ベストガード水溶剤			1	口	4回以内	定植時の土壌混和は1回以内、株元		
	ノレノ↓	$\Delta$					3回.	以内	4 凹丛内	散布及び散布は合計3回以内		
F 11	Jフルミゾー <i>,</i>		3	トリフミ	ミン水和剤		5回.	以内	5 回以内			
N. 9.	ノルミソ	<i>/—)</i>	U6,3	パンチョTF顆粒水和剤		2回.	以内	3 四丛内				
イミ	1 12 12 13		M7 -	ベルクー	-トフロア	ブル	5回	以内	10 同以由	10回以内(但し、育苗期は5回以内、 本圃では5回以内)		
	ノクタ <b>ミ</b>			ベルクー	-ト水和剤		5回.	以内	10 回以内			